

【学校教育目標】 夢に向かって 自ら学ぶ 豊かで たくましい生徒

黒西中だより



TEL 048-768-5454

心のホット相談室 TEL 048-764-1110

<http://kuronishichu.style.coocan.jp/>



第 10 号

令和7年2月1日

生徒数

1年	85名	3学級
2年	83名	3学級
3年	92名	3学級
4組	3名	1学級
5組	2名	1学級
合計	265名	11学級

ある朝の二人（猫とカラス）の出来事

校長 檜田 光東

まだまだ寒い日が続きますが、穏やかな風の無い冬晴れの空に春の到来を遠く感じることができる季節となりました。3年生は進路決定に、1・2年生は今年度のまとめと来年度の準備に向けて心を引き締めて、適度な緊張感の中、毎日の学校生活を落ち着いて送っています。

私は本校就任以来、朝、手押信号のある横断歩道に立ち「横断中」の旗を持って生徒の登校の様子を見守っています。道路の向こう側にはちょっとした小径が続く家と隣接した畑があり、視界右手にはブロック塀で仕切られた家とガレージ、宅地の塀際にやや大きな木があります。ずいぶん、前の話になりますがある朝、いつものように登校の見守りをしていました。歩道に横断歩道の信号待ちの生徒が集まってきました。いつも友達同士で話していることが多いのですが、その日は多くの生徒が木の上の方をずっと見ていました。何かかと思っただけを見てみると1m80cm位の高さのブロック塀より高い場所の木の枝に猫が一匹、その向かい側の枝に距離を1メートルくらい開けてカラスが一羽いました。どうやら二人（正確には一匹と一羽）の間で何かあったようで睨み合いをしているようでした。猫は木の枝からいつでもカラスに飛びかかることができるような臨戦態勢を取り、カラスは少し飛んで近づいたり離れたり等、こちらも今にも襲いかかろうとしていました。互いに微妙な距離を取ったままの睨み合いが続く中、突然、別のカラスが飛んできてカラスの近くに止まりました。そのカラスは攻撃に加わずに、「何かあったのかい？やれ！やれ！」とけしかけているようでした。カラスは味方が来て気が大きくなったのか、猫にさらに近づいたり、大きい声で「カーカー」と威嚇したりし始めました。猫は決して怖じけずに冷静に臨戦態勢のまま、飛びかかるふりを時折し、その度、乗っている木の枝がゆらゆら不安定に揺れました。そうこうしているうちに、2羽の小さなすずめが飛んできました。カラス側の木の枝に止まり、安全な距離を保ってもめ事を高見の見物という感じで見ていました。「もめているみたいだね。どうしたんだろうね。」「おもしろそうだね。」と2羽のすずめは話しているようでした。やがて、カラスと猫はお互いにもう少し近づけば取っ組み合いになるだろうという距離くらいまで近づくと最後はカラスが木の枝からぱっと空へと飛んでいきました。それに続いてすずめも飛んでいきました。猫はカラスが飛んでいくのを見ると何事もなかったようにトントンと勢いよく木の枝をつたわって登りガレージの屋根へと消えました。

その時です。もう一匹の別の猫がものすごい勢いで小径の奥の家辺りから地面を駆けてきて、ブロック塀をものすごい勢いで駆け登り、木の枝をタンタンと跳ねてガレージの屋根へと上っていきました。おそらく、カラスとにらみ合っていた猫のところへ行ったのでしょう。その猫が、「どうした。だいじょうぶ。他にどうしても外せないことがあって助けに行けなかったんだ。ごめん、ごめん。」とすぐに伝えたいのか、「カラスに脅かされていたのはわかったけど、怖くて助けに行けなかったんだ。ごめん。ごめん。」と伝えたいのか定かではありませんが、カラスが飛び去っていくやいなや、ものすごいスピードで地面を駆けてきてブロック塀と木を駆け上り、その猫に会いに行ったことは間違いありません。

「動物達にもいろいろな事情やドラマがあるのだろう。大変なのだな。」と思いました。その場所において、この様子を見ていたみなさん、どのようなことがカラスや猫やすずめの間にあったと思いますか。創造力を膨らませて覚えている人がいたら、ぜひ、感想を聞かせてください。その時以降、カラスと猫のもめごととは見ていません。今頃、カラスも猫もすずめもどうしているのでしょうか。みんな仲良く過ごしていると良いのですが……。

保護者の皆様、地域の皆様、本校の教育活動に対して、多大なるご理解とご支援とご協力をいただきまして、大変にありがとうございます。今後もどうぞよろしくお願いいたします。